讀賣新聞
ワークシート通信

2026年 11月 4日

★★

ピチッと冬支度

年　組　（　）　名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

◆まもなく寒い冬を迎えます。北海道ではどうぶつたちが冬のじゅんびを進めています。



ピチッと 冬支度

冬の到来を前に、北海道の大雪山国立公園の一角（北海道鹿追町）でエゾナキウサギが越冬の準備に駆け回っている＝写真、横山就平撮影＝。

山中では、時折「ピチッ」と甲高い鳴き声を響かせて駆け回る様子が見られた。訪れた人たちは、ストレスを与えないよう静かに見守りながら、その愛くるしい姿を撮影していた。

（2026年10月14日　読売新聞夕刊より）

※先生やおうちの人といっしょによみましょう。

【1】写真にうつっているどうぶつの名前を書きましょう。

【2】どうぶつのなき声はほかにどんなものがあるでしょうか。たくさん書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2026年 11月 4日

★★★

「歩かない人」に駅がエール

年　組（　）名前

サイン

◆東京都内の駅にユニークなポスターが掲示されています。

（2026年10月22日　読売新聞都民版より）



エスカレーター

啓発へポスター

「立ち止まってくれてありがとう」。JR立川駅など4駅で今春から、エスカレーターで歩かない人を応援するポスターが掲示されている。エスカレーターの右側を歩く人の転倒事故や、左側だけに列ができることでホームが混雑するなどの弊害があり、鉄道各社は歩かないように呼びかけているが効果は薄い。呼びかける対象を変えたJR東日本の社員は、「右側に立つ人に『あなたは間違っていない』と応援したかった」としている。（石井恭平）

ポスターは立川駅の他に三鷹、武蔵小金井、国分寺の3駅で、エスカレーター付近やコンコースなどに掲示され、「手すりにつかまるあなたを立川駅は応援しています」などと書かれている。

「歩いている人に『歩くのはやめてください』というより、立ち止まってくれる人に感謝を伝えた方が（心に響く）効果があると思った」。ポスター制作者の一人で、三鷹駅副長の伊藤知範さん（46）はこう狙いを語る。

伊藤さんはエスカレーターからの転倒事故防止と障害者への配慮などから、問題を解決したいと考えていた同僚と、新たなポスターの作成を考えた。文言には、右側に立ち止まる人に「あなたたちを応援している、との気持ちを伝えたい」とのメッセージを込めた。

伊藤さんは「ポスター1枚で劇的に慣習を変えられるとは思わないが、何年後かに、以前より立ち止まる人が増えていればうれしい」と、利用者の行動が変わることを期待する。

【1】ポスターは、どんな問題を解決するためにつくられましたか。

【2】記事の例のように、感謝やお礼の言葉を使って改善できそうな問題はありますか。どんな言葉で伝えたらよいかも考えて、裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2026年 11月 4日

★★★★

桜など食害地域　5倍に

年　　組　（　　）　名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

◆外来種「クビアカツヤカミキリ」による樹木の被害が全国に広がっています。

（2026年9月28日　読売新聞朝刊より）

桜など食害地域 5倍に

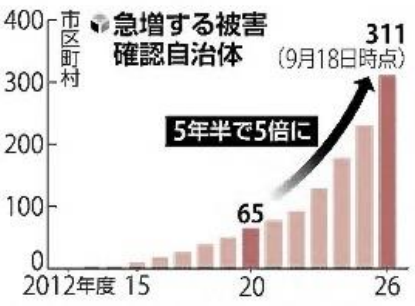
本社調査 311自治体5年半で

サクラやモモなどバラ科の樹木を内部から食い荒らす特定外来生物クビアカツヤカミキリ㊟＝写真、環境省提供＝の被害が急増している。読売新聞の調べでは、被害範囲は今月18日時点で22都府県311市区町村に及び、5年半で5倍に拡大した。2025年度の被害樹木は少なくとも4万7600本に上る。

クビアカツヤカミキリ



㊟クビアカツヤカミキリ　体長約2～4㌢。黒い光沢と赤い胸部（首の部分）が特徴で名前の由来になった。最大約1000個の卵を産むなど繁殖力が強い。1回に飛べる距離は20～30㌔程度で移動能力は高くないが、車両に付着して被害エリアを広げているとされる。原産地は中国、朝鮮半島などで、国内への侵入ルートは不明。環境省によると、国内では中国産とDNAの一部が一致する個体が見つかっている。



農業・観光 危機感

クビアカツヤカミキリは樹木に卵を産みつけ、幼虫が幹の内側の「内樹皮」と呼ばれる部分を食い荒らす。内樹皮は養分を運ぶ役割を担っており、食害を受けると枯死する恐れがある。

国内では12年に愛知県で最初の被害が確認され、翌13年に埼玉県、15年には群馬、東京、大阪、徳島の4都府県に拡大。国は18年、保管や輸入販売、野外へ放つことなどを禁じる特定外来生物に指定した。

読売新聞が環境省や農林水産省、関係都府県、市区町村に問い合わせたところ、18日までに311市区町村で被害が確認され、20年度末の65市町村から5倍近くに急増した。被害樹木の本数は、大阪府が最多の1万4860本で、群馬県1万3927本、和歌山県4891本が続く。

各地で駆除が試みられているが拡大を防げていない。埼玉、群馬両県では県内の9割以上の市町村に被害が広がり、サクラの名所として知られる奈良県吉野町の吉野山でも25年10月に初めて被害が確認された。大阪府内のモモ園では既に食害が発生し、今年は、山梨県甲州市のモモ園や神奈川県小田原市の曽我梅林でも被害木が見つかった。

事態を重く見た国は7月末に対策本部を設置。全国的な防除強化に乗り出し、今月11日には「防除戦略」をまとめた。今後、被害樹木の伐採や、被害未発生地域での農薬散布といった費用を支援し、「30年をめどに被害地域の縮小に道筋をつける」とする。



クビアカツヤカミキリの糞（ふん）と木くずの混合物が根元に吹き出たモモの木。幼虫除去のため樹皮をはがすと、食害で空洞が生じていた（3月、大阪府河内長野市で）

【1】クビアカツヤカミキリが木を枯らす仕組みを説明しましょう。

【2】被害はどのようにして国内で広がったと考えられていますか。

【3】あなたが住む都道府県の被害や、被害が出た場合に社会へ及ぼす影響を、クビアカツヤカミキリの生態とともに調べ、裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2026年 11月 4日

★★★★★ 医療の安全「日常」の中に

年　組（　）名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

■阪大病院チーム ミス「本質」分析

◆手痛いミスが発生すると原因を探し、関係者の責任を問う。大阪大学医学部付属病院（阪大病院）に、これとは距離を置くやり方を研究するチームがあります。

編集委員　清水美明

医療の安全「日常」の中に

東京都内で定期的に開催されている著名な勉強会がある。航空、化学、医療など多方面から安全問題と向き合う専門家が招かれる。今年、事故を起こした当事者に対する懲罰について意見を求められる時間があったという。

「管見の限り、怠けていた人が当事者になるという事例を知りません。必死に仕事をした人が、あたかも事故の引き金をひいた当事者のように映り、懲罰を受ける、そういう可能性はないでしょうか」

発言したのは、阪大病院教授で、同病院の安全管理を担う中央クオリティマネジメント部長・中島和江さん。日常業務の研究を進める中心人物だ。勉強会の後、多くの出席者から声をかけられた。「自分たちの肌感覚と同じです」

失敗した者を指弾するやり方に現場は違和感を覚えている。ミスを減らし、安全を確保するために、組織が選びうる別の道はあるのか。

阪大病院の薬剤部で、医師から指示された量を超えて内服薬を調剤するミスがあった。薬剤師が誤り、確認役の薬剤師の目もすり抜けた。調査が行われ、用量を大きく書いて棚に貼りつける、確認役を増やす、バーコードを導入する、などの改善策が打ち出された。しかし、中島さんたちは別の目標を立てた。「組織や仕事の中に、見逃し、見落としているものを探す」


中島和江さん

医師や看護師も加わる特別チームをつくり、薬剤部の仕事を一から、徹底的に理解する作業を始めた。見えてきたのは、限られた人員と決まった時間枠という制約の下で発揮される努力と工夫だった。

業務が増える時間帯は、数人のベテランが確認作業を含む処理の速度をフルパワーで上げ、別の部署の薬剤師にも応援を求める。こうした努力の一方で、負担が増えないよう、薬を病棟へ運ぶ自動搬送機の運用の回数を絞る工夫もしていた。

その結果、起こったのはこうだ。投薬の時間が迫った病棟から問い合わせの電話が頻繁に入る。搬送機の到着を待てない看護師らが薬剤部までやって来る。電話と薬の手渡しで、調剤の作業は平均して3分と続かず中断する。

限られた人員と時間の中で仕事をまっとうしようとした。だが、部署にはそれぞれ異なる仕組みがある。そのつながりを考慮しないために、各自がベストを尽くすことが、目に見えない悪循環を生み出していた。

ここに気づけば、チェックの強化など根本的な対策になりえず、業務を増やすに等しいものだとわかる。真に向き合うべきは仕組みで、まずは作業を中断させる要因を除去しなければならないことも。

特別チームは最終的に、調剤や搬送の進捗を表示するシステムや、手渡し不要の専用ロッカーの導入、希望する病棟向けの搬送機の追加運用を打ち出した。

「講演でこのケースについて話すと、別の病院の方が『うちの薬剤部を調べたのかと思いました』と驚かれる。どこでも起こる構造の問題なんです」と中島さんは言う。「だから、日常の業務を丹念に調べないといけない。一つの事例と特定の部署だけに目を向け、日ごろの部署間のつながりを無視したのでは、何も見えてきません」

「日々の業務は、メンバーがいわば、さまざまな調整を重ねることでなんとか成功している。その中に危うい成功が含まれていることは、事故が起こるまでは気づきにくいのです」と中島さんは語る。

どんな業界にも当てはまる。能力の高い人や関係先との貴重なパイプを持つ人が、数人でもいてくれると組織は助かる。でも、なけなしの人材に頼り切って仕事を続けるのはたいへん危ない。

しかし、ミスが起こらなければ、組織はその状態に慣れ、管理側も手を打たない。有能な人でも負担が大きいと、ミスを犯す確率は上がる。そこへ悪い条件が重なり事故が起こる。「適応できる限界を超えるのは、日ごろ頑張っている人やチームです。組織として支援し、せめてチームの持つ能力を拡張する仕組み、助け合う文化をつくる努力をしなければいけません」（中島さん）

（2026年9月19日 読売新聞朝刊より）

【1】記事にある阪大病院薬剤部の調剤ミスで、特別チームが気づいたミスの本質はどのようなことですか。

【2】特別チームは、ミスを減らすために組織としてどうするべきだと主張していますか。裏に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信

2026年 11月 4日

★★★★ Women leaders in disaster management

年　　組　（　　）　名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

◆高知県で「南海トラフ地震」のような大災害に対応できる女性人材を育てる取り組みが行われています。（2026年10月11日　The Japan News より）

Kochi hopes to cultivate women leaders in disaster management



KOCHI – Initiatives to develop women who can take on leadership roles in their communities in the wake of a large-scale disaster, such as a Nankai Trough earthquake, are underway in Kochi Prefecture.

Since 2017, the women's disaster management project training program has been offering workshops, with 209 participants having completed them to date.

The program is run by the Kochi gender equality foundation, a public interest incorporated foundation. These women are expected to play active roles as female disaster management leaders, providing disaster preparedness education in schools in normal times and managing evacuation shelters during disasters.

In the wake of disasters such as the 2011 Great East Japan Earthquake, various issues have highlighted the importance of incorporating women's perspectives into disaster preparedness. These include issues such as the lack of women's changing rooms in evacuation shelters and men overseeing distributing relief supplies, including sanitary products.

cultivate:（才能などを）養う　management:管理能力　initiative：第一歩、手始め　underway:進行中
women's disaster management project :「女性防災プロジェクト」（育成講座の名前）participants:参加者
Kochi gender equality foundation :「こうち男女共同参画社会づくり財団」（団体名）　public interest incorporated foundation：公益財団法人　provide:提供する disaster preparedness education:防災教育
evacuation shelters:避難所　various issues:さまざまな問題　lack:欠如　oversee:（仕事を）差配する
distribute:配布する relief supply:救援物資 sanitary products :（この文章では女性用の）衛生用品

【1】記事は、女性リーダーにどのような役割が期待されると紹介していますか。平時と災害時のそれぞれについて、記事からぬき出して英語で書きましょう。

平時	
災害時	

【2】記事は、東日本大震災で、女性の視点を欠いたためどんな問題が起きたと記していますか。日本語で書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

2025年度
約175万人の小学生が
年賀状作成体験授業に参加!

手紙の書き方 体験授業

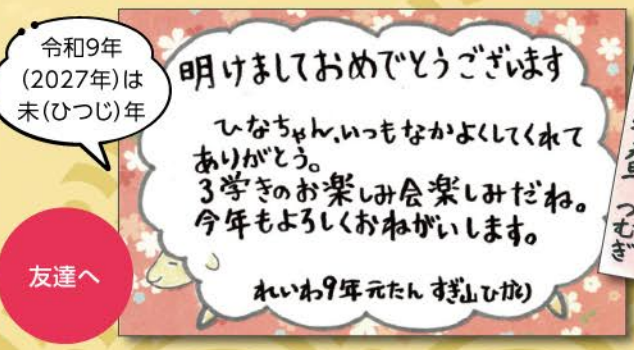
2026年度

年賀状には、身につけられることがたくさんあります。

相手を思い浮かべる力

自分の言葉で伝える力

日本の文化を知る入口







手書きで思いを伝える年賀状体験を、小学生のときに。

年賀状を書くという体験が多くの価値と結果をもたらします。自分の気持ちを整理して、相手を思い、それを文章と絵で表現することによって心の豊かさとコミュニケーション力を養います。
今年お世話になったお礼や来年の目標を書いて送る年賀状は、子どもたちが今年一年を振り返りつつ、来年に向けて思いを馳せる絶好の機会になります。ぜひ11・12月は、「年賀状の書き方体験授業」にお取り組みください。

教材・年賀はがきが無料

2027年用 年賀はがき



年賀状補助教材

年賀はがきをお申込みいただくと

低・中・高学年用 年賀状補助教材をもれなく進呈!!

短時間で年賀状の書き方が学べます!



ICT活用コンテンツもWebサイトにアップ!(無料で利用可能)

教材紹介&申込受付 手紙の書き方体験授業 検索

もれなく参加賞プレゼント

第24回 全日本年賀状大賞コンクール

学んだ成果を応募してみよう

◆第23回入賞作品



●応募部門 : 版画部門、絵手紙部門、ことば部門
●応募締切 : 2027年1月8日(金)(当日消印有効)

詳しくはこちら